

1. 愛知県立大学

教育

項番 1 文理横断・領域横断型教育の推進

指標①：新たな文理融合領域の設置に向けた高校生向けニーズ調査を実施し、学士課程の改革方針を策定

- ・企業・高校教員向けニーズ調査、16 社 26 名の企業・団体等との意見交換会（合同会議）を実施。
- ・新たな教育組織「共創学群社会イノベーション学類」を設置することを決定し、学士課程改革の基本方針を策定。あわせて教教分離体制の導入に向け検討を開始。
- ・共創学群社会イノベーション学類の設置に向けて学内理解を深めるため、全学説明会を 4 回、将来構想説明会を 2 回実施。

指標②：複数の研究科間において、カリキュラムをブリッジして相互履修を促進する仕組みを第四期最終年度までに構築

- ・看護学研究科・人間発達学研究科の相互履修・聴講制度について 2026 年度から導入を決定。

項番 6 多様な連携による教育プログラムの充実

指標①：地域や海外等の学外機関との連携教育プログラムを、第四期終了時点までに新たに 2 件以上実施

- ・国際文化研究科コミュニティ通訳学コースにおいて、ベトナム・ハノイ国家大学との連携教育プログラム実施に向けた協定を締結。
- ・教育福祉学部(教職課程)において、教育委員会との連携による高大接続プログラム「愛・地域教員へのトビラ」（愛知県／名古屋市の小学校教育に関心のある高校生対象）を 2026 年度より開設決定。

研究

項番 15 外部資金獲得件数の増加

指標①：外部資金獲得増に向けた方針を 2026 年度末までに策定し、研究推進局を中心とした研究支援体制を強化

- ・科研費について、外部支援業者による申請書添削支援を継続実施。

指標②：研究に係る外部資金獲得件数を、第三期最終年度と比較して、第四期終了時点までの 6 年間で、増加分合計 60 件以上

- ・研究に係る外部資金獲得件数は 235 件で、第三期最終年度と比較して 21 件増加。
- ・科研費採択実績に応じた「教員研究費インセンティブ制度」を導入。
- ・外部資金の獲得増に向け、採択例に関する研究所間の意見交換や情報共有の場の確保、複数業者による科研費支援の可能性、一方向型の科研費講習会から双方向型勉強会への転換について検討。

地域連携・貢献・課題解決

項番 20 スタートアップ関連活動の支援と体制整備

指標①：インキュベーション施設を整備するとともに運営体制を構築

- ・2026 年 10 月 1 日付けでインキュベーションマネージャーを雇用するため新たな就業規則の整備を実施し、公募を開始。

指標②：スタートアップやアントレプレナーシップ関連企画を、第四期終了時点までに 6 件以上実施

- ・芸大との連携事業として 2026 年 6 月に「アントレプレナーシップ実習」の実施を決定。教養教育科目「ソーシャル・アクティビティ」の対象実習として位置付け、単位認定を制度化。

2. 愛知県立芸術大学

教育

項番 22 芸術大学に相応しい特色ある授業科目の開発

指標①：美術学部、音楽学部の両学部及び美術研究科、音楽研究科の両研究科に跨った特色ある科目を全学的に展開

- ・総合芸術大学ならではの教養教育科目として、美術学部、音楽学部の専任教員が両学部の学生のために講義する「美術論」、「音楽論」を2026年度後期より開講決定。
- ・芸術を学ぶ学生にとって必要な基礎的能力を身につける「初年次教育」を2026年度入学生から1年次前期の必修科目として新設。

指標②：両学部が履修可能なキャリア教育科目を新設

- ・アーティストとして活動するために必要な社会的知識、能力を身につける「キャリア教育」を、2026年度入学生から2年生の必修科目として新設。2027年度の開講を予定。

項番 28 多様なニーズに対応したキャリア支援、学生支援

指標①：各種説明会、ガイダンス等のアンケートにおいて、満足度が5段階評価で4以上と回答する参加者の割合を毎年度80%以上

- ・実践的なキャリア支援に向けた、全学的なガイダンス、セミナーを実施し、受講した全学生から5段階中4以上の評価を獲得。

指標②：芸術専門分野における学外主催のコンクール等において、在学生の受賞実績を毎年度50件以上

- ・2025年度受賞実績は107件を達成（学内推薦は除く）。

指標③：学生の休退学等の異動状況を分析し、経済的支援及び学生相談体制を整備

- ・学生相談体制及び教職員の情報・課題共有について他大学の情報収集。

研究

項番 31 分野横断的研究、他機関と連携した研究の推進

指標①：受託研究、研究に関する受託事業、他の研究機関との連携研究を毎年度10件以上実施

- ・2025年度は、受託研究、研究に関する受託事業、共同研究等の件数は35件（うち文化財保存修復研究所の修復・模写事業19件）。

指標②：URA人材の登用、サバティカル制度の導入などにより、研究者の支援体制を整備

- ・県大に設置予定のインキュベーション施設における連携も見据えた体制整備に向けて、両大学のトップにて意見交換を実施。

地域連携・貢献・課題解決

項番 33 大学のブランドイメージ確立に向けた情報発信

指標①：学長直下に広報の組織を設置し、全学的なブランド力向上のための取組を実施

- ・学長直下に全学広報会議を設置し、定期的開催。
- ・2026年度の周年事業に向け、デザイン専攻春田教授が統一性のある県大・芸大の記念ロゴを作成し、2大学が連携した広報を実施。

指標②：教育研究、地域連携及び芸術活動の成果を発信する体制を整備

- ・社会連携・研究活動のPR効果を高めるため、連携事業概要・写真等をまとめた「事例・実績報告」を大学WEBサイトで公開開始。
- ・社会連携組織である一般社団法人VAUAを2025年10月に設立し、2026年4月より本格稼働。2025年度は、ケアアート事業（芸術を通じた社会福祉事業）やトップアーティスト支援事業等を実施。

3. 法人・大学運営

項番 35 県立大学・県立芸術大学の特色強化に向けた2大学連携推進

指標①：毎年度、2大学連携事業を実施し、その成果を発信

- ・「教養教育に係る2大学連携WG」を「2大学連携WG」に変更し、構成員を追加し体制を強化。対象を拡充して連携事業を検討、実施。
- ・2大学連携ロゴを作成し、名刺やチラシなどに積極的に掲載し学内外への周知を推進。また、一部イベントは記者発表による情報発信を実施。

項番 39 DXの推進及び組織や業務の見直しの推進

指標①：2025年度末までにDX推進方針を策定し、実施

- ・愛知県公立大学法人DX推進方針を策定、WEBサイトで公開。

指標②：2026年度末までに新たな業務システムとして電子決裁システムを導入し、運用

- ・電子決裁システムについて、文書管理も可能な業務システムを導入。クラウドサービスを選択し計画より1年前倒しで運用を開始。

項番 43 大学の成果及び運営情報の発信、戦略的な広報の推進

指標①：2026年度末までに広報グランドデザインを策定し、実行

- ・広報グランドデザインを基本方針・重点施策・倫理ガイドラインの構成とすることを決定し、基本方針の策定を完了。重点施策、倫理ガイドラインの素案を作成。
- ・重点施策の策定に向け、両大学のブランディングについても各大学の委員会等で検討を進め、県大では「愛県大魅力化宣言」を策定。

指標②：メディア掲載件数を第四期終了時点までに第三期最終年度より20%以上増加

- ・新聞・テレビ等のメディア掲載件数において前年比127%を達成。

指標の進捗状況概要(2025年度・進捗管理表より)

		良好	遅延	計
県大	教育	22 (3)	0 (0)	22 (3)
	研究	6 (2)	0 (0)	6 (2)
	地域連携・貢献・課題解決	7 (2)	1 (0)	8 (2)
	小計	35 (7)	1 (0)	36 (7)
芸大	教育	20 (5)	1 (0)	21 (5)
	研究	3 (1)	1 (1)	4 (2)
	地域連携・貢献・課題解決	5 (2)	0 (0)	5 (2)
	小計	28 (8)	2 (1)	30 (9)
法人・大学運営	業務運営	10 (3)	0 (0)	10 (3)
	財務内容	1 (0)	1 (0)	2 (0)
	自己点検・評価情報提供	3 (2)	0 (0)	3 (2)
	その他業務運営	5 (0)	0 (0)	5 (0)
	小計	19 (5)	1 (0)	20 (5)
合 計		82 (20)	4 (1)	86 (21)

※数値は指標の数（項番の数ではない）

※（ ）内は重点的計画の指標の数

第四期中期計画進捗管理表(2025年度実績) 抜粋

項番	中期計画	指標	評価基準	進捗状況						
				2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)	
19	地域のニーズを踏まえた公開講座、看護実践セミナー等を引き続き実施するとともに、リカレント教育プログラムの実施体制を整備し、事業の定着、充実化を図る。また、これらの一般・社会人向けの生涯学習事業を本学の主要事業として推進、発信できる仕組みづくりを行う。	①2027年度までに「愛県大リカレント教育方針」を策定し、実施体制を整備する。	定性的 (方針策定)	計画	リカレント教育 方針策定	方針策定・ 実施体制整備	実施体制 整備	実施	→	検証・見直し
				実績	△					
				備考	[未達理由等]全学への意見聴取等を丁寧に重ねた結果多くの意見があったため、それらを反映させたうえで、2026年4月に方針策定。					
24	大学院教育において、美術界や音楽界の中核として、その優れた芸術活動力を論理的整合性を持って社会に発信できる人材の育成に向け、高度かつ魅力のある専門教育を実践する。	②音楽研究科において、大学院生による学会発表の件数を毎年度2件以上とする。	定量的 (毎年度発表 件数2件以上)	計画	2件	2件	2件	2件	2件	2件
				実績	1件					
				備考	[未達理由等]院生の実績は1件。2026年度より博士後期課程にて研究論文の向上を目的とした授業を開講。なお、優秀な学部生による学会発表があった(1件)。					
31	地域文化の発展に資する研究を引き続き推進するとともに、その多様化を目指し、分野を越えた横断的研究や、県立大学、産業界を含む他の研究機関等と連携した研究を推進する。また、外部資金の獲得に向け体制を整備する。 【重点的計画】	②URA人材の登用、サバティカル制度の導入などにより、研究者の支援体制を整備する。	定性的 (研究者支援 体制整備)	計画	準備・検討	準備・検討	制度導入 (体制)整備	検証	必要に応じ 再検討	評価・改善
				実績	△					
				備考	[未達理由等]県大に設置予定のインキュベーション施設における連携等も見据えた一体的な体制整備に向けて調整中。両大学トップにて意見交換を実施。					
40	外部研究資金や寄附金などの自己収入の増加に向けて、ステークホルダーに対し教育研究活動を効果的に発信するとともに、事業への参画や支援への働きかけを実施する。	①自己収入の増加に向けた具体的な取組を掲げる基本方針を2025年度末までに策定し、新たな収入確保の手法を導入する。	定性的 (基本方針の 策定)	計画	基本方針 策定	基本方針・ 個別要綱策定	実施	実施・検証	実施・検証	実施・検証
				実績	△					
				備考	[未達理由等]方針に掲げる具体的な取組の検討に時間を要しているが、2026年度に実効性のある基本方針と個別要綱を策定見込み。					

定性的指標：「○」=進捗が良好である、「△」=進捗に遅れがある / 定量的指標：「-」=数値なし